
名探偵。やられたり。

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名探偵。やられたり。

【Nコード】

N9468L

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

最初は意味不ですが、最後の最後で意味がようやくわかります。

哀ちゃん視点です。

哀↓新一

ではありません。

勿論、新蘭。

この話は、名探偵コナン
自作小説
にも掲載されています。

(前書き)

哀ちゃんの『観察日記』
です。

興味のある方は呼んでください♪

「6月4日。」

ターゲットSはRことSの恋人の3カ月ぶりのデート。

なんたつて、このところ事件続きでキャンセルの山だった。

しかし、Sは事件がなかったのにもかかわらず、自らの趣味として
いる推理小説に

夢中になり、Rを5時間待たせた模様。その日から3日、SはRに
口を利いてもらえなかった。

「6月8日。」

相変わらず、Sの活躍っぷりが新聞に載っている。

人間としては尊敬したいと思う人物なのだが、男としては最悪だ。
Rのことをなんだと思っているのだろう。Rにご飯を作ってもらっ
たら、

そのまま自宅へと帰す。デートもろくにしないくせに。

「6月13日。」

隣にあの、大阪コンビのHとKが来た。

KはRとショッピングへ。彼女に付いて来るなといわれても、
彼女の美貌を町の男は逃さないであろう。

ナンパの嵐。それを恐れる彼たちはこっそり後をつける。はっき
り言つて、ストーカーの手前。

「6月17日。」

SとRがアルサーヌこと、米花センタービル展望レストランへ出か

けている。

あそこは、ココだけの話、ある席には伝統があり、探偵の彼氏が彼女を置いて事件に行き、

事件が解決して、彼女にプロポーズした。以後、そこはプロポーズの席となっている。

その、彼氏と彼女は他でもない。Sの両親なのだ。キザなSのこと。多分、そこでプロポーズするであろう。

「6月20日。」

驚いた。Sが本当にプロポーズした。

私の予想では、言わないで帰るのに90%賭けていた。

なんてこと、私が外れるなんて。予定外だった。

でも、幸せそうなRの顔を見るのは何年ぶりだろう。

この顔を半年も奪っていたと思うとつらくなる。

「6月25日。」

SはRの親に挨拶に行った模様。

帰ってくるとき、腰を手で抑え、Rに支えられながら帰ってきた。

多分、Rの父親に『背負い投げ』を受けたのだ。

Rの父親は、元柔道部。そして、あの、Rの父親。

相当な痛さなのだろう。3日後、痛さに耐え切れず、私に薬を求めるに98%賭ける。

「6月28日。」

ズバリ、予想的中だった。

とても痛そうだったが、それはとても幸せな痛みなんだろう。

「7月2日。」

結婚式まであと、20日。

Rの作ったケーキを自分がいなかったのが悪いのに

その間に食べた私につらくあたった。

そんなに食べたいのなら、頼めばいいものの、言い出せないらしい。

訳がわからない。

「7月9日。」

Rに告白した後輩がいた。

Sと結婚することを知らなかったとしても、Rに告白するとはとんだ命知らずだ。

Sに何をされるかわからない。はっきりいって、再起不能になるかもしれない。

+「工藤先輩なんかやめてください！あんなの事件ばかりで毛利先輩をほったらかしにしてた人なんか」

それを言ってしまったらおしまい。RはSをけなされることを一番嫌う。

その後、その後輩がどうなったかはわからない。

「7月14日。」

SとRにそっくりなKとAが来た。

大阪コンビのHとKもだ。

なんでも、結婚式の手伝いらしい。

毎度毎度、彼女の女だけのショッピングは許せない彼達は

彼女に付いていく。だが、鈍感な彼女たちは荷物を持ってくると

勘違いしているらしい。

「7月18日。」

Sは家にきて、ふと、こう漏らした。

「はあ。はやく蘭の飯が食いてえー。」

現在、12時30分。つい、3時間前に朝食を作ってもらったのに。

それほど、彼女が恋しいのだろうか。

『彼女が好きすぎるお馬鹿な探偵さん？結婚おめでとう。』

「……ぜってー、嫌味だろ。」

「きゃー！新ちゃんったら、蘭ちゃんをそんなに……!？」

「新……////」

「そ、そんくねーお前に惚れてるってことだよ。」

「ありがとう。」

「//////」

さすがの救世主さんも

最愛な彼女には勝てないみたいね？

「これ、蘭さんにあげるわ。」

「あ、ありがとう。」

「なにたくらんでる・・・」

「なにつて・・・将来の貴方達の子供に見せてあげることを期待

してるだけよ？」

「みせねーぞ。」

見せなくて結構。ちゃんとコピーしてるんだから。

「コピー・・・とかしてねえよな？」

相変わらず勘がするどいわ。

「さあ？どつかしら。」

「こんにゃろ。」

私の攻撃はまだまだこれからなのよ？工藤君。

園子さん、服部君、和葉さん、黒羽君、青子さんにも

いろいろとされると思うけど、

覚悟しておいたほうが身のためだと思うわ。

ねえ、平成のホームズさん？

（後書き）

最後は新一と蘭の結婚式。
場所は結婚式会場。
ってことになりますね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9468/>

名探偵。やられたり。

2011年10月7日03時48分発行